

Ex式 圧縮型 ジョイント技術導入の経緯

森 太 郎[◎]

一昨年のCIGREに於いて、Raufoss社の爆薬を使用する圧縮工法が発表せられた。早速Osloに行き工法の実際を調べ試験成績を調査しました。その性能と云い、省力効果と云い成績抜群である事におどろいたのであります。労務費の昂騰の際せひ之を導入し、斯界に貢献すべきものとの確信を得た訳であります。詳細は別に述べられて居るので深くはふれないが要するに

1. 省力効果満点である。
2. 工事が完全で施工者による個人差がない。
3. 水密で氷結によるスリーブの破裂の恐がない。
4. 万一電線の挿入が完全でない場合でも施工後チェック出来る。(唯一の施工不良)
5. 製品は火にくべても燃えるが、爆発する様な事はない。鉄塔上から落して導線線が切れても爆発は起さず、極めて安全である。

斯様に利点ばかりである。唯一の欠点と云えば工事の際の爆音である。その音の高さは、吾々が街中で経験する花火位で、ホーンメーターで測定しても略同等である。雀おどしの音よりはやや高い。始めて実験を見られた方はびっくりされた方も多様であるが、小一時間もかかる圧縮操作を一瞬にしてやってしまうのであるから、energyは相当大で、音が出なければ不思議である。

私は最初のうちは、山の中、人里離れた処で使用されるであろうが、さきざきは次第に山から下りて、人家に近い処でも使用され、ゆくゆくは全部この工法に替るものと考えて居ります。

昨年夏Raufoss社75周年記念式典に招待を受けた時スカンジナビヤの実情を調べました処今では全部この圧縮工法一本に代って居りました。ノルウェは人口は日本の $\frac{1}{10}$ 、面積は略等しく確に粗ではありますが、送電線が皆人里離れた処ばかりを走っている訳ではありません。

吾国に於いても既に人家から35米位の処で実架線をやりましたが、何等支障はありません。次に費用の事にちょっとふれます。

現在でも大口径電線では完全にpay出来ますが、これが使用の普遍化と共に小sizeの電線でも、

◎もり たろう 旭電機株式会社 代表取締役会長

payする様になる事を確信致して居ります。

水圧機を全然使用しない送電線の出現が待ち望まれます。どうぞEx式ジョイントの普及を御願申し上げます。